

定住・移住を支援 住宅に関する補助金

山ノ内町では、移住者や若者夫婦への家賃補助や空き家の改修補助、マイホーム取得等の補助制度が充実しています。

- ・若者定住促進家賃補助金・・・最大月 27,000 円×3 年間
- ・移住促進家賃補助金・・・最大月 27,000 円×3 年間
- ・空き家活用改修等事業補助金・・・最大 80 万円
- ・若者定住促進マイホーム取得等補助金・・・最大 150 万円 など



住まいに関する補助制度について
(山ノ内町 HP)



地域活性化 起業や空き家の活用

山ノ内町では、起業される方の事業に必要な経費の補助や、空き家等を再生して利活用する事業をサポートする補助制度を設けています。

【起業チャレンジ支援事業補助金】
町では、町内に居住し、事業所等を設置して起業をする方への補助を行っています。

【空き家等再生事業補助金】
町内の空き家等を活用し店舗等で営む事業の建物改修費および賃借料に対し補助金を交付しています。



各種補助制度
(山ノ内町 HP)



暮らす やまのうち

TAKE
FREE

ご自由にお持ちください

長野県山ノ内町はこんなところ！



山ノ内町は長野県の北東部、上信越高原国立公園の中心に位置する人口約12,000人の自然の恵み豊かなまちです。四季折々の素晴らしい自然が広がる志賀高原と北志賀高原、湯量豊富な湯田中渋温泉郷、温泉に入る野生の猿“スノーモンキー”といった個性的な観光地を有しています。



Facebook 暮らすやまのうち



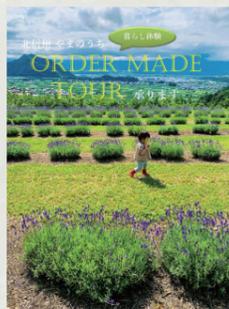
移住イベント情報発信中！
(移住相談会 / 体験イベントなど)

Instagram @kurasuyamanouchi
#暮らすやまのうち



暮らし体験してみませんか？

山ノ内町では移住を検討している方に向けて暮らしを体験できるメニューをご用意しています。



春夏秋冬季節ごとの暮らしや自然体験を盛り込んだ暮らし体験イベント(年4回開催)

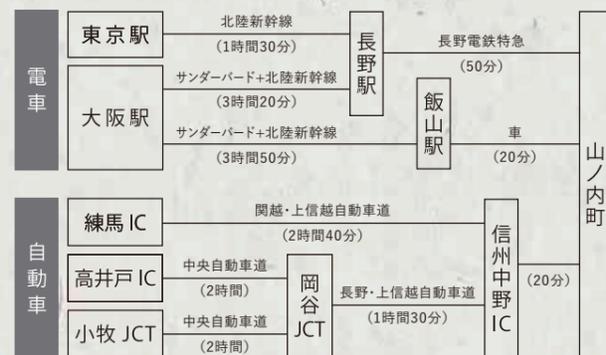
ご自分やご家族が知りたい子育て環境や生活範囲、地域の魅力等希望に合わせて案内する暮らし体験オーダーメイドツアー(随時開催)

田舎暮らし体験住宅もあります

詳しい情報は
コチラ



山ノ内町へのアクセス



移住相談窓口

山ノ内町役場 未来創造課 移住国際交流係

TEL 0269-33-3113 FAX 0269-33-4527

E-mail iju-teiju@town.yamanouchi.lg.jp

〒381-0498 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏 3352-1

山ノ内町の移住・定住情報が満載！

暮らすやまのうち

検索

https://kurasuyamanouchi.com



『優しく見守ってくれているから、新しい挑戦ができる。そんな町だと思います。』

そう語るのは、神奈川県出身の寛(ひろし)さんと京都府出身の紀世(きよ)さんの藤田さんご夫妻。それぞれ野沢温泉の旅館で働いていて出会い、その後独立のため山ノ内町へ移住し、2022年の初夏に夫婦2人で「食堂よろしき日」をオープンしました。

コロナ禍を機に腰を据えて自分らしい暮らしをしたいと思うようになり、お店を開こうと考えたとき、不安だったのは資金のこと。住居および店舗を探すにもハードルを感じます。そんなお二人の背中を押したのが、役場の支援でした。移住や起業をサポートする補助金の支援、店舗件住居の好物件との出会いがあり、山ノ内町で新たなスタートを切ることができたご夫妻。今度はお二人の人の柄や世界観が人々を惹きつけます。

INTERVIEW

食堂よろしき日

藤田寛さん・紀世さんご夫妻

▲ 地元の手しごと 陶芸

▲ 無添加にこだわる きっちゃん農園の果物ジュース

▲ 地域の学びを支える 山ノ内町立蟻川図書館

▲ ローカルフードピックアップ 山ノ内と京都の融合 よろしき日定食

長野県山ノ内町の暮らしの魅力を発信するジャーナル

発行 山ノ内町
北信州 志賀高原の麓



町や地域の支援が、開業したい人、お店をやりたい人が挑戦するきっかけになると思うんです。

湯田中駅から歩いて3分ほどの場所にある空き店舗を自宅兼店舗として改装。円窓がついた明るい木の扉を開けると、どこか懐かしくあたたかい空間が広がります。

こだわった地元の食材を軸に、多くの手づくり惣菜が食べられる週替わり定食がおすすめです、と話すのは調理を担当する紀世さん。お盆の上には、週替わりのメイン料理と、たくさんの小鉢が並んで「おぼんざい風」に。お米は山ノ内町のブランド米である「雪白舞」、お味噌も地元のを主に使っています。北信州の食材を使いつつ、京都出身である紀世さんならではのお出汁をかきさせた“京都テイスト”も際立ちます。

「やりたいことがあるのにやらないでいるのはもったいないという思いはどこかにあって。北信州に移住してきて、環境が変わったからこそよりその思いが強くなったんです。そんな僕たちの挑戦を、山ノ内町のサポートが後押ししてくれました。」もともと野沢温泉の旅館に勤めていたご夫妻が山ノ内町で飲食店を開くにあたって、きっかけのひとつとなったのが、山ノ内町役場への訪問。それぞれの担当者が親身になって色々なことを教えてくれたり、移住促進家賃補助金、空き家等再生事業補助金をはじめとした補助金制度、物件探しへの手厚いサポートもあり、「食堂よろしき日」がオープンできたといいます。

自宅と店舗を兼ねた物件を選んだことで、除雪など生活と営業の維持負担を減らすことができている、お客様用駐車場があるところも大きなポイントだったそうです。

それぞれ県外出身のご夫妻ですが、長野県内での生活を経たからか、山ノ内町に移住して不便に感じることはほとんどなかったと言います。むしろ、都会とは目につくものが違うからこそ、新しく何かを始めることが増えた、と寛さん。「山ノ内町は思っていたよりも閉鎖的ではなくて。外を歩くと挨拶をするのが当たり前で、初めは少し驚きました。でもそういったつながりやあたたかい目があるからこそ、新しいことができているとも思うんです。だからこれからは、私たちが挑戦のきっかけになればいいなど。移住してきているからこそ、この場所に立ち寄った方の、移住や新しいことへの挑戦を後押ししたいです。」

地元の人と、移住してきた人の思いが連鎖して、町が賑わっていく。訪れた人が「いつかやってみたい」と思っていたことを今日から始めたい。食堂よろしき日には、そんなポジティブな空気が漂っています。

食堂よろしき日

〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町平穂2943-3
Tel.0269-38-1916

Instagram @shokudoyoroshikihi



Instagram





Yamanouchi
LOCAL FOOD

北信州と京都の融合
よろしき日定食

野菜やお米など、農作物の生産が盛んな長野県。中でも高い標高と志賀高原の水に恵まれた山ノ内町では、とりわけ質の高い物が作られています。食堂よろしき日さんで見つけたのは、週替わりでメイン料理が変わる「よろしき日定食」。メイン料理と、小鉢、サラダ、お味噌汁とご飯、そしてデザートがつく“おぼんざい風”の定食です。地元北信州の食材と紀世さんの地元である京都の味を融合させた、食堂よろしき日ならではのおふくろの味。野菜を中心としたヘルシーな定食ですが、月に一度の「肉の日」では寛さんがキッチンに立ちお肉料理をふるまいます。地元の食材は、訪れたお客さんとのつながりで新たに仕入れ先が見つかることもしばしば。山ノ内町でとれた新鮮な食材と、京都の繊細な味が一度に楽しめるメニュー。



地元の手しごと・陶芸

趣味が、町の文化の入り口に



「定食のご飯茶碗は、自分たちで作ったものを使っています。」と寛さん。店内の棚には、ご夫妻お手製の器がずらり。お店を開店するとき作家さんに食器を作っていただこうと思いつき工房に行ったところ、自分たちで作って見たら？と言われたことがきっかけで、実際にやってみたらとても楽しかったそう。

現時点ではネットで販売はしていないものの、持って帰りたいというお客さんがいれば値段をつけてお譲りすることも。「同じものは作れない、世界にひとつだけのものなので、逆にそれが来てくださった人にとっての価値になるのかなと思います。」

今は焼成用の窯を持っておらず器の制作に時間がかかるため、いつかは自分たちの窯を持ちたい、と話すご夫妻。器をつくるワークショップを開いて、自分でつくった器でお店の定食を食べてもらいたいといいます。「陶芸に興味を持っている人って、結構いるんじゃないかと思うんです。でも、教えられる人の高齢化も進んでいるので、僕たちや近くにいる陶芸仲間を中心に、文化を作っていくって町が盛り上がりていけばいいな、と。」そう語るご夫妻は、近隣で開催されるクラフトマーケットにも出店しているそう。山登りやスキーの帰りにふらっと立ち寄ったときに、そういえば陶芸気になってたんだよね、とやってみるきっかけになる場所でありたいというご



夫妻。それが、山ノ内町にくる新たなきっかけになればいいと考えているそう。お店で使う食器をつくるために始めたところから、お二人にとって大切な趣味となった陶芸。ここから山ノ内町の新たな文化が紡がれるかもしれません。



無添加に
こだわる

きっちゃん農園の果物ジュース

藤田さん夫妻が野沢温泉から山ノ内町に移住するきっかけのひとつとなった、紀世さんの妹夫婦が営むきっちゃん農園。巨峰とりんごを栽培するきっちゃん農園では、無添加の果物ジュースを生産しています。それぞれこだわりの搾汁方法で作っており、濃厚で深い甘みを楽しめるのが特徴。種あり巨峰ジュースは、巨峰をしっかりとりすりつぶしてから煮るという昔ながらの方法で作ることで、風味豊かでコクのある一杯に仕上がっています。サンふじを使用したりんごジュースは、酸化防止剤を使用せずに搾汁してもらえる業者さんを探して生産を依頼。きっちゃん農園の果物ジュースは、香料や酸化防止剤などの化学化合物を一切使用していません。ふるさと納税の返礼品にもなっています。

【山ノ内町ふるさと寄附金“オラ”のふるさと応援賞】

志賀高原の麓で作られた極上の果物はもちろん、信州牛やクラフトビール、スキーリフト券、町内の宿泊補助券など、返礼品が充実しています。

ふるさと納税
(山ノ内町 HP)



地域の学びを支える 山ノ内町立 蟻川図書館

山ノ内町出身とゆかりの深い蟻川浩雄氏からの寄附により、1992年6月23日に開館しました。蟻川氏の多くの寄附によっても支えられてきた蔵書は約92,000冊と、小さな町の図書館ながら大変充実しており、人口1人あたりの蔵書数8.0冊は全国平均3.3冊を大きく上回ります。そのうち児童書が約33,000冊と特に充実していて、おはなし会やブックスタート事業などの取り組みも積極的に行っている、子どもに優しい図書館でもあります。

2階には閲覧・学習室があり、学生や社会人の勉強スペースとしても利用されています。利用はすべて無料、どなたでも利用可(ただし、貸し出しは町民および町内に通勤している方のみ)。Free Wi-Fiもご利用いただけます。

【山ノ内町立蟻川図書館】

〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町大字平穂4009番地1
開館時間：火～日曜日 9:00～18:00
※休館日：月曜日/国民の祝日(月曜日に当たる時はその翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)
【TEL】0269-33-1184

蟻川図書館について
(山ノ内町 HP)

